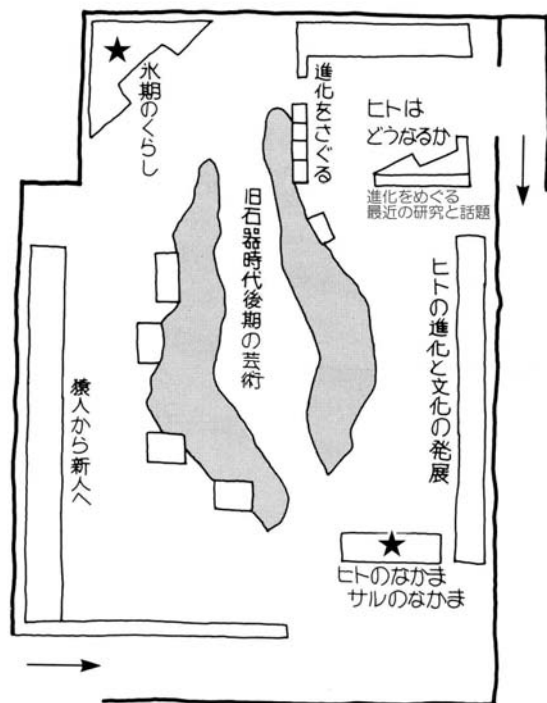


ほんかんだい しつ **本館第1室：ヒトのはじまり——進化** しんか

ヒトが現在のような身体になり、現在のような文化を発展させるまでには400万年とも500万年ともいわれる長い年月がかかっています。この展示室では、人類のなりたちとその生物学的、文化的特徴、そして全世界への拡がりをご紹介します。

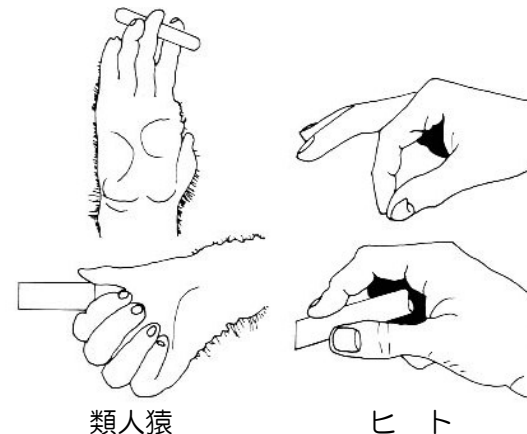


EVOLUTIONS

Through biological specimens and prehistoric artifacts, this hall examines the process of human evolution and the diffusion of human beings to all over the world.

きょう て **ヒトの器用な手**

ヒトは直立二足歩行することにより、両手が自由になりました。それだけでなく、ヒトの手は脳の発達と互いに作用しあって、たいへん器用な指さばきができるようになりました。ヒトの手は、親指が長く、他の4本の指と十分に対向しているのもので、物を上手に「にぎる」、「つかむ」、「つまむ」ことができます。いっぽう類人猿は親指がみじかいので、ひとさし指と中指とで、あるいは折り曲げたひとさし指と親指とで物をつかみます。

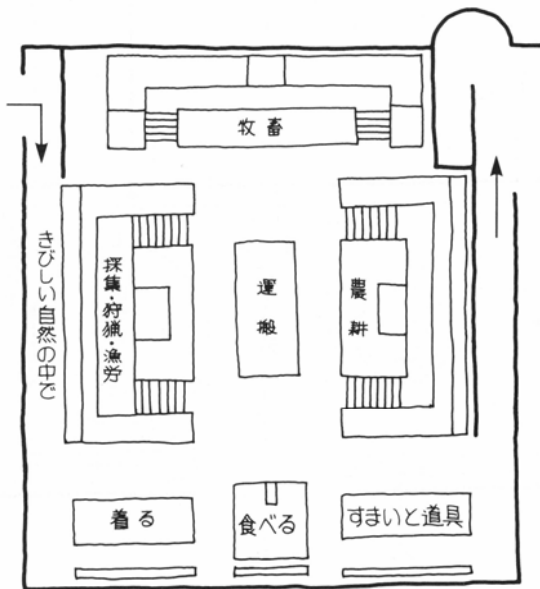


ほね た いえ **マンモスの骨で建てた家**

シベリアでは、マンモスの骨や牙で建てた数万年前の住居跡が発見されています。直径約5mのドーム型で、骨組みを丸太とマンモスの牙で作り、その上に皮をかぶせた住居です。毛皮を押さえるためにはマンモスの牙や骨が利用され、ドームの接地部分のまわりには、マンモスの頭部やアゴの骨がならべられていました。展示ジオラマでその様子を再現しています。

ほんかんだい しつ い くふう ぎじゆつ  
**本館第2室：生きるための工夫——技術**

きよう とも はったつ のう たよう  
 器用な手と、それと共に発達した脳により、ヒトは多様な  
 技術を編み出し、いろいろな道具を作ってきました。およそ  
 1万年前まで、私たちの祖先は、野、山、川、海で生きる狩猟、  
 さいしゅう ぎょうろ のうこう ほくちく なりわい  
 採集、漁撈の民でした。その後農耕や牧畜も生業としはじめま  
 したが、多様な自然環境に適応して生活するために、食料の  
 かくとく ちょうり いるい す ゆそう ぎじゆつ はってん  
 獲得とその調理、衣類、住まい、輸送などの技術を発展させて  
 きたことは、人類共通に見られることです。この展示室では、  
 人類のさまざまな技術を民族資料2000余と映像プログラム  
 50余にて紹介しています。



**TECHNOLOGY**

Adapting to environments, human beings have developed various techniques: getting food, cooking, clothing, housing and transportation. This hall exhibits human achievements in technology.

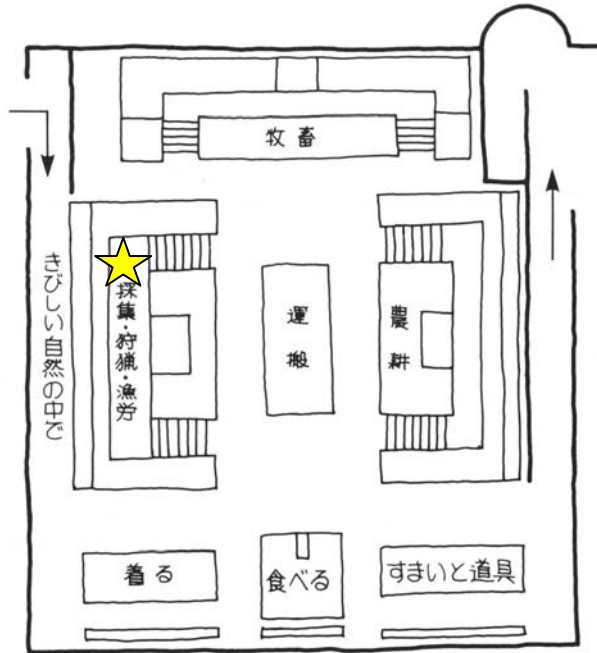
◆ 映像プログラム一覧 ◆

カッコ内は撮影年です

- きびしい自然の中で生きる  
 砂漠のサン：アフリカ南部、カラハリ砂漠 (1962)  
 極北のイヌイット (エスキモー) (1976)
- 着るための工夫
  - 1 身体の装飾と刺青 ブラジル (1975) とインドネシア (1982)
  - 2 ミン族のベニスケース パプアニューギニア (1968)
  - 3 木の皮でパンツを作る コンゴ民主共和国、ムプティ (1972)
  - 4 ハンモック ブラジル、カマユラ (1975)
  - 5 羊毛を手でつむぐ デンマーク、ファロー諸島 (1979)
- 食べるための工夫
  - 1 ククカカの石蒸し料理 パプアニューギニア (1968)
  - 2 サゴ澱粉精製 インドネシア、イリアンジャヤ、アスマット (1982)
  - 3 ユカの毒抜き コロンビア、アマゾン河支流 (1972)
  - 4 テフの草でパンを作る エチオピア、アムハラ (1980)
  - 5 塩づくり インドネシア、イリアンジャヤ、ダニ (1968)
  - 6 ソバのごはん 中国、雲南省、アシ (1981)
- すまいと道具
  - 1 ミン族の石斧づくり パプアニューギニア (1977)
  - 2 かごづくり ブラジル、ナンビクワラ (1978)
  - 3 竹のびく作り 中国、雲南省、タイ (1981)
  - 4 ナイル川の土器づくり スーダン、ヌエル族とヌバ (1979)
  - 5 樹上の家作り フィリピン、パラワン (1974)
- 採集・狩猟・漁撈：アメリカ
  - 1 木の実や虫を食べる ブラジル (1974) とベネズエラ (1974)
  - 2 毒を使って魚をとる ブラジル、カマユラ (1975)
  - 3 弓矢でサルを狩る ブラジル、ナンビクワラ (1978)
  - 4 ジャングルで陸ガメをとる ブラジル、チュカハマイ (1974)
  - 5 吹き矢で鳥を射る エクアドル、ヒバロ (1975)
- 採集・狩猟・漁撈：オセアニア
  - 1 海と川から食料をとる オセアニア各地 (1969,77,82)
  - 2 素もぐり・真珠母貝とり ツアモツ諸島 (1969)
  - 3 尻あげ漁 ソロモン、マライタ島 (1971)
  - 4 ジュゴン漁と海亀漁 パプアニューギニア (1977)
  - 5 サメの輪どり サモア (1969)
- 採集・狩猟・漁撈：アジア
  - 1 海、山、川での採集 アジア各地 (1973,81,82)
  - 2 ムルの鳥もち猟 バングラデシュ (1973)
  - 3 鷹匠 山形県 (1961)
  - 4 鶉飼 中国、雲南省、白族 (1981)
  - 5 突き棒漁 静岡県 (1973)
- 採集・狩猟・漁撈：アフリカ
  - 1 森の中で採集する コンゴ民主共和国、ムプティ (1972)
  - 2 網の追込み猟 コンゴ民主共和国、ムプティ (1972)
  - 3 ナイル川のカバ狩り スーダン、ヌエル (1979)
  - 4 イツリの森で象を狩る コンゴ民主共和国、ムプティ (1972)
- 農耕：イモと畑作
  - 1 マンジョウカの収穫 ブラジル、カマユラ (1975)
  - 2 マブリックのヤムイモまつり パプアニューギニア (1977)
  - 3 タロイモの料理 ソロモン、サンクリストバル島 (1974)
  - 4 ムスタンのソバづくり ネパール、チベット (1977)
- 農耕：焼畑と水稲耕作
  - 1 焼畑の陸稲栽培 タイ北部、アカ (1974)
  - 2 ダニの焼畑 インドネシア、イリアンジャヤ (1970)
  - 3 水田の稲作 中国、雲南省、白族 (1981)
  - 4 水稲の収穫 インドネシア、バリ島 (1967)
- 牧畜：ヨーロッパ・アフリカ・アメリカ
  - 1 サーミ人のトナカイ放牧 ノルウェーとフィンランド (1980)
  - 2 アルプスの冬の牛追い スイス (1971)
  - 3 ナイル川で牛の放牧 スーダン、ヌエル (1979)
  - 4 ラクダの血と乳を飲む ケニア、トゥルカナ (1980)
  - 5 ケチュアとコンドル ベルー、アンデス山地 (1972)
- 牧畜：西アジア・中央アジア・北アフリカ
  - 1 高原の遊牧民バクティアリ イラン (1972)
  - 2 ヤギや羊を放牧する エジプト、ベトウィン (1982)
  - 3 チベットのヤク遊牧 中国、チベット自治区 (1982)
  - 4 ヤギの放牧 中国、雲南省、アシ (1981)
  - 5 トルクメン族のケチャー作り イラン、ゴルガン高原 (1982)

ほんかんたい しつ い くふう ぎじゅつ  
 本館第2室：生きるための工夫——技術

きよう とも はったつ のう たよう あ  
 器用な手と、それと共に発達した脳により、ヒトは、多様な技術を編  
 み出し、いろいろな道具を作ってきました。およそ1万年前まで、  
 私たちの祖先は、野、山、川、海で生きる狩猟、採集、漁撈の民  
 でした。その後農耕や牧畜も生業としはじめましたが、多様な  
 しぜんかんきょう てきおう せいかつ しょくりょう かくとく ちょうり いるい  
 自然環境に適応して生活するために、食糧の獲得とその調理、衣類、  
 すまい ゆそう ぎじゅつ はってん じんるいきょうつう  
 住まい、輸送などの技術を発展させてきたことは、人類共通に見ら  
 れることです。この展示室では、人類のさまざまな技術を民族資料  
 えいぞう しょうかい  
 2000余と映像プログラム50余にて紹介しています。



## TECHNOLOGY

Adapting to environments, human beings have developed various techniques: getting food, cooking, clothing, housing and transportation. This hall exhibits human achievements in technology.

さいしゅうしゅりょうみん  
 採集狩猟民 ムブティ



ムブティは、中央アフリカの  
 森林地帯、コンゴ盆地北東部の  
 イトゥリの森に約4万人住ん  
 でいます。背が低く、男性は  
 平均145cm前後、女性は135cm  
 前後であるため、ピグミー(小さ  
 い人)とも呼ばれてきました。家  
 族5～20からなる、バンドと  
 いう居住集団をつくり、森の  
 中で移動生活を送っています。

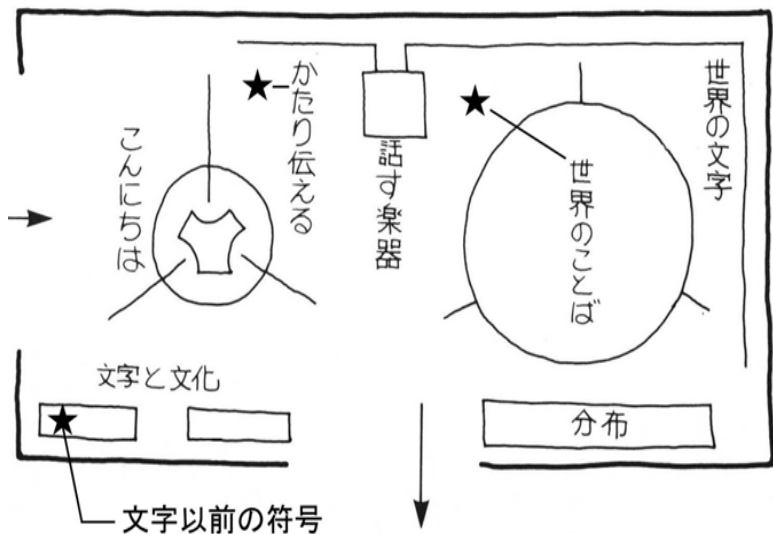
ムブティは、野生のイモ類、キノコ、木の実などを採集し、弓矢や網を  
 用いてダイカ、サルなどの小型動物を狩猟します。網を用いた狩猟を  
 ネット・ハンティングといい、蔓の内皮を編んで作った高さ1～1.5  
 m、長さ40～100mのネットをつなぎ合わせて円形に張りめぐらし、  
 動物を追いたててネットに絡ませてつかまえます。ゾウなどの大型獣  
 を槍でしとめることもあります。蜂蜜も重要な食糧で、ハニー・シーズン  
 (蜂蜜の季節)と呼ばれる4～6月には、食物の70%が蜂蜜でまか  
 なわれます。

イトウリの森の近くにはムブティだけでなく、農業を営む人びとも  
 住んでいます。ムブティは彼らと共生的関係を形成し、8月から11  
 月の雨季の間、ムブティは森を出て農耕民の畑仕事を手伝って生計をた  
 てています。狩猟で得た肉や蜂蜜を農作物と交換したりもします。ム  
 ブティは、かつては独自の言語を持っていましたが、現在はその言語を  
 なくしてしまい、近く住む農耕民の言語を借用して使っています。また  
 ムブティは、歌やダンスが上手なことで有名です。

ほんかんだい しつ せかい げんご  
**本館第3室：ことばの世界——言語**

“ことば”はヒトを他の生き物から区別する特徴のひとつです。人類は、数万年前から言語を使用していたと考えられています。お互いの意志を伝え合うために、音や声を発し、記号を用い、そしておよそ1万年前に文字を発明しました。言葉の使用は、抽象的 思考を可能にし、また知識を次の世代に伝達し集積させていくのに重要でした。

この展示室では、言語の役割とその多様性を、民族資料とともに音声や映像で紹介しています。



**LANGUAGE**

To communicate with each other, human beings use languages consisting of sounds, writings and symbols. This hall explains the role and diversity of languages.

もじいぜん ふごう  
**文字以前の符号**

コンゴ民主共和国（旧 ザイール）のイトウリの森で狩猟 採集 生活をする民族、ムブティが、カサブルという植物の大きな葉でつくるエコンビと呼ばれる目印は、動物の種類や、自分の属する集団をあらわしています。

獲物を追うとき、根元を進行方向に向けて置いてゆくことによって、道に迷わず、仲間に行き先を伝えることができます。



はな がっき たいこ  
**話す楽器：太鼓ことば**

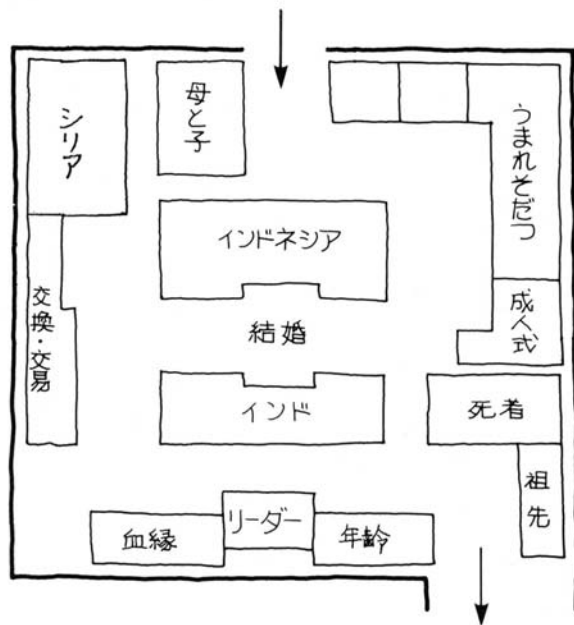
西アフリカから中部アフリカにかけての地域では、人間が話す言葉の特徴をなぞって、太鼓の音の高低、強弱、長短によりメッセージを伝える習慣があります。写真はカメルーンファンの太鼓です。

マホガニーの太鼓の音は数 km 先まで届き、森に働きに出かけている仲間を呼び戻したり、他の村へ何かを伝えたいときに用います。太鼓の音は人間の声よりも遠くまで届くため、電話や無線のない時代、とても優れた通信手段でした。



ほんかんだい しつ ひと しゃかい  
**本館第4室：人のつながり——社会**

ヒトは、家族をはじめ、いろいろな社会関係の網の目の中で生きています。ヒトの一生をたどりながら、さまざまな社会のしくみを説明し、社会を作って生きる人類という側面を、1000余の世界各地の民族資料と40数プログラムの映像から紹介します。



**SOCIETY**

From birth to death, man's life is a serial reproduction of human relations. This hall presents various kinds of social systems such as family, kinship, trade and community.

◆ **映像プログラム一覧**

◆ うまれ育つ：出産から少年まで

- |   |           |                             |
|---|-----------|-----------------------------|
| 1 | クカクカの山の出産 | パプアニューギニア (1968)            |
| 2 | 頭と顔の整形    | ベネズエラ、ヤノマモ (1974)           |
| 3 | 子供の命名式    | インドネシア (1970) とエチオピア (1980) |
| 4 | 森の狩人としつけ  | コンゴ民主共和国、ムブティ (1972)        |
| 5 | チベットの出家   | ネパール、ムスタン (1977)            |
| 6 | 正月とこども    | 中国、雲南省、タイ (1981) とアシ (1981) |

◆ うまれ育つ：成人式

- |   |            |                           |
|---|------------|---------------------------|
| 1 | カツオ漁成人式    | ソロモン諸島 (1975)             |
| 2 | ワニの成人式     | パプアニューギニア、セビック川流域 (1975)  |
| 3 | ムブティの成人式   | コンゴ、イトゥリの森 (1982)         |
| 4 | 割礼と抜歯      | エチオピア (1972) とスーダン (1979) |
| 5 | ミツオゴの成人式   | ガボン (1973)                |
| 6 | 囲いの中で美女にする | ブラジル、カマウラ (1981)          |

◆ 家庭をつくる：交際と求婚

- |   |            |                            |
|---|------------|----------------------------|
| 1 | メンティの男女交際  | パプアニューギニア (1981)           |
| 2 | 求愛の笛吹き     | バングラデシュ、ムル (1973)          |
| 3 | 求愛のダンス     | パプアニューギニア、トロブリアンド諸島 (1976) |
| 4 | 雲南の歌垣アシ跳月  | 中国、雲南省、アシ (1981)           |
| 5 | チロルの冬追いまつり | オーストリア (1971)              |

◆ 家庭をつくる：結婚式

- |   |              |                        |
|---|--------------|------------------------|
| 1 | 貝貨で嫁もらい      | ソロモン諸島、マライタ島 (1973)    |
| 2 | アムハラの幼児婚     | エチオピア (1980)           |
| 3 | ムブティの結婚式     | コンゴ、イトゥリの森 (1982)      |
| 4 | ロマ(ジプシー)の結婚式 | マケドニア(旧ユーゴスラビア) (1975) |
| 5 | クレタ島の結婚式     | ギリシャ (1972)            |
| 6 | ハラ谷の結婚式      | ブルガリア (1976)           |

◆ 社会のしくみ：戦争と平和

- |   |             |                             |
|---|-------------|-----------------------------|
| 1 | ゴゴダラのカヌーレース | パプアニューギニア (1977)            |
| 2 | 養子縁組        | インドネシア、イリアンジャヤ、アスマット (1982) |
| 3 | 藩王の裁き       | イエメン (1977)                 |
| 4 | ヨボのまつり      | ベネズエラ、ヤノマモ (1975)           |
| 5 | 部族対抗大相撲     | ブラジル、アマゾン河支流 (1974)         |

◆ 社会のしくみ：呪術師とシャーマン

- |   |           |                          |
|---|-----------|--------------------------|
| 1 | 呪術で病気をなおす | コロンビア、アマゾン河支流 (1972)     |
| 2 | 魔の呪術ブードゥ  | ハイチ (1982)               |
| 3 | 殺人の呪術     | パプアニューギニア、イエローリバー (1977) |
| 4 | 収穫感謝祭     | インドネシア、ダヤック (1972)       |
| 5 | 災厄ばらいの家祭  | 韓国、京畿道 (1972)            |
| 6 | 死者がのり移る巫女 | インドネシア、バリ島 (1973)        |

◆ 葬礼

- |   |            |                     |
|---|------------|---------------------|
| 1 | クカクカのミイラ作り | パプアニューギニア (1968)    |
| 2 | ムスタンの鳥葬    | ネパール、チベット (1977)    |
| 3 | 鳥の羽根で死者を飾る | ブラジル、チュカハマイ (1981)  |
| 4 | 石積み墓場      | マダガスカル、マハファリ (1975) |
| 5 | ラマ教の火葬     | インド、ラダク地方 (1982)    |

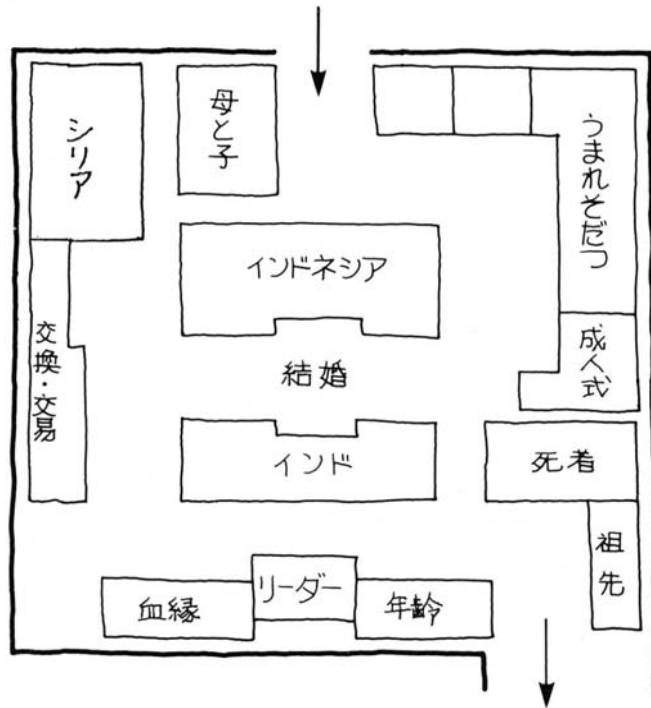
◆ 祖先とのつながり

- |   |           |                             |
|---|-----------|-----------------------------|
| 1 | 祖先供養マネネ   | インドネシア、スラウェシ、トラジャ (1972)    |
| 2 | 二次葬クワンカイ  | インドネシア、ダヤック (1972)          |
| 3 | 祖先の頭蓋骨と踊る | パプアニューギニア (1977)            |
| 4 | ドゥクドゥク    | パプアニューギニア、トーライ (1975)       |
| 5 | ピスのまつり    | インドネシア、イリアンジャヤ、アスマット (1982) |

カッコ内は撮影年です

## ほんかんだい しつ ひと しゃかい 本館第4室：人のつながり——社会

人間は、家族をはじめ、いろいろな社会関係の網の目の中で生きています。人間の一生をたどりながら、さまざまな社会のしくみを説明し、社会を作って生きるヒト、人、人間、人類という側面を1000余の世界各地の民族資料と40数プログラムの映像から紹介します。



### SOCIETY

From birth to death, man's life is a serial reproduction of human relations. This hall presents various kind of social systems such as family, kinship, trade and community.

## インドの結婚コーナー：カースト

カーストとは、結婚や食事に関する「タブー（禁忌）」など、厳格な規制をもつ、インドの階層制の通称です。カーストによる差別は法律で禁止されていますが、とくに地方では今でも社会に根づいています。

**ヴァルナ**カーストというと、インド古来のバラモン（司祭）、クシャトリア（王侯・武士）、ヴァイシャ（庶民）、シュードラ（隷属民）の四姓と理解されることが多いですが、これは正確には「ヴァルナ（色）」と呼ばれます。古代にヨーロッパ系のアーリア人がインドに侵入して、支配者となりました。肌の白いアーリア人と肌の色が濃い先住民とを区別するヴァルナ（色）という語が使われ、「身分」「階層」の意味が加わりました。混血が進み肌の色では区別できなくなったあとも、この語は依然として「階層」の意味に使われ続けたのです。

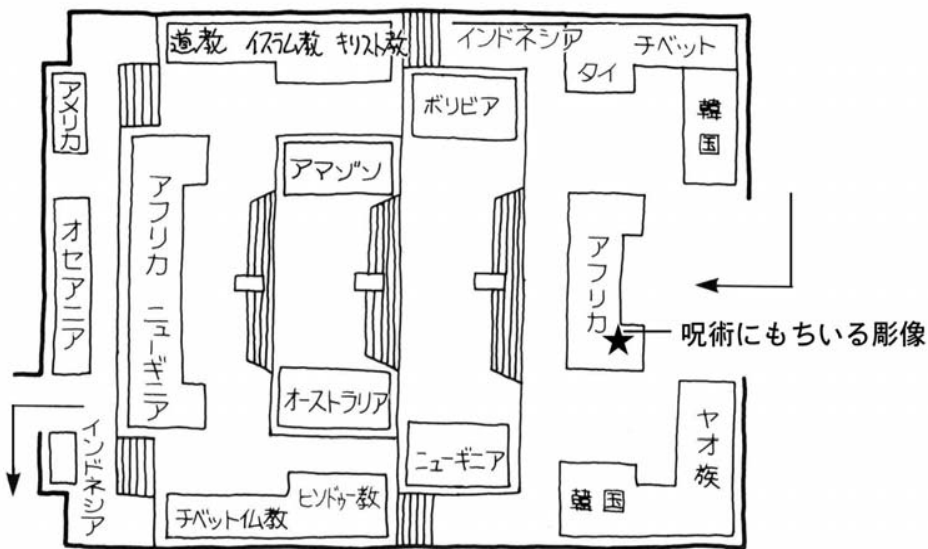
**ジャーティ**カーストとは、ポルトガル語で「家柄」「血族」を意味するカスタに由来する語です。インドでは、カースト集団を「生まれ」を意味する「ジャーティ」という語で呼んでいます。ひとつの村は、ブラーマン（ヒンドゥー教司祭）、地主、農民、金銀細工師、銅細工師、鍛冶屋、土器職人、織物職人などの職能集団、すなわち数十の「ジャーティ」で構成され、それらは、浄と不浄（ケガレ）の観念に基づいて、上下の序列がつけられています。

**タブー**そのために、カーストの上位の者が下位の者と食事を共にすることは、ケガレが移ると考えられ、タブーとされています。また、カーストが異なる者同士の結婚もタブーとされ、「カースト内婚」（同じジャーティ内で結婚する）が行われます。ただし、婚姻が許される同程度のジャーティもあり、その場合、女性はより上位の男性に嫁ぐのがよいとされ、それを「ハイパーガミー（上昇婚）」と言います。その場合はとくに、たくさんの「ダウリー（持参財）」を嫁側が用意し、婿側の家族に贈与することが求められます。

ほんかんだい しつ うちゅう かし  
**本館第5室：こころの宇宙——価値**

ヒトは世界観をもち、そこに自分を位置づけることにより、ただ生きるのではなく、生きる意味や価値を見いだしました。これこそ他の生き物とは異なる、私たち人間の最大の特徴といえるでしょう。

この展示室では、人類が心の中に創り出したイメージの表れとして、世界各地の宗教や儀礼や芸術を紹介しています。



**VALUES**

People have their own world view and add the color to the life. This hall presents religion, rituals and arts, as representation of the meaning of life.

じゆじゆつ ちようそう  
**呪術にもちいる彫像**

これは、コンゴ民主共和国（旧ザイール）に住むコンゴ人たちの呪術医の彫像である。体中に鉄片が埋め込まれているようすを見て、ワラ人形に五寸釘を打ちつける日本の呪術を思い出す方が多いと思う。ところがこれは、他人を突然の不幸におとし入れるために使用する人形ではない。かえって、他人からの邪悪な呪術から護ってくれる呪術医を表わしており、防衛のために使用するものなのである。

彫像の腹の部分には二つの突起がある。ここには、呪術から守ってくれる呪薬が納められているのである。この突起には、鏡の破片をつけたふたがされる。鏡は、悪霊の目をくらませる、あるいは見えなくする働きがあるとされている。また、彫像の手には、小さな槍や刀が持たされていて、これで悪霊と闘うとされている。口は開かれ、体内にとりついた悪霊を吐き出しているようすを示す。呪薬は腹だけでなく、頭に納められていることもある。

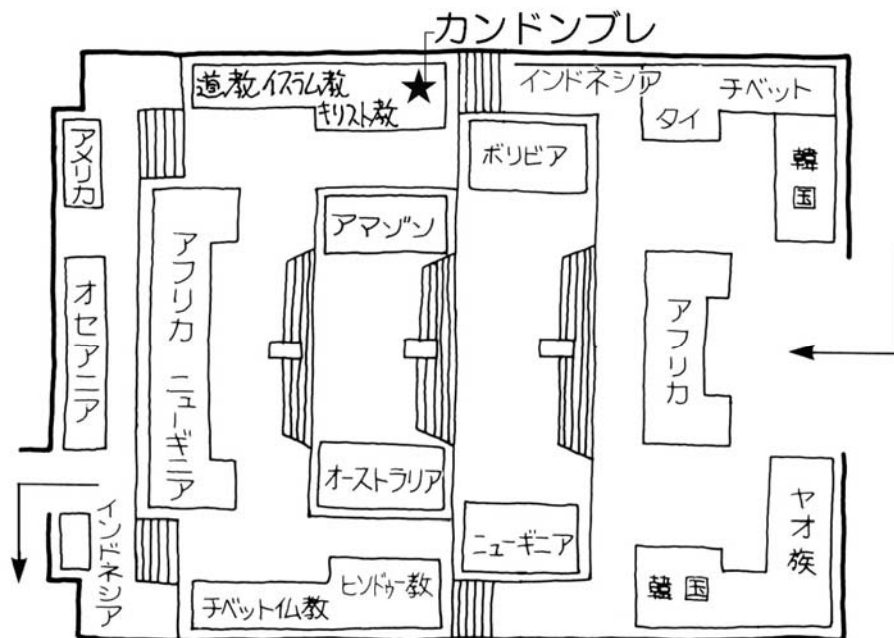
一般にアフリカの彫像では、男女の違いが明確に外見で分かるように彫ってあるが、この彫像では、男女の差はさっぱり分からない。ただ、呪術医、あるいは、悪霊から身を護るための彫像としての特徴があるだけである。同様な特徴をもった彫像は、人物像だけでなく、動物の像としても作られることがある。



ほんかんだい しつ うちゅう かち  
**本館第5室：こころの宇宙——価値**

ヒトは世界観をもち、そこに自分を位置づけることにより、ただ生きるのではなく、生きる意味や価値を見いだしました。これこそ他の生き物とは異なる、私たち人間の最大の特徴といえるでしょう。

この展示室では、人類が心の中に創り出したイメージの表れとして、世界各地の宗教や儀礼や芸術を紹介しています。



**VALUES**

People have their own world view and add the color to the life. This hall presents religion, rituals and arts, as representation of the meaning of life.

**ブラジルのカンドンブレ**

【アフリカ起源、再創造された宗教】

カンドンブレとは、ポルトガルの植民地であったブラジルにアフリカから連れてこられた奴隷たちがはじめた宗教です。特にヨルバ系の奴隷が、故郷ヨルバランド(現在のナイジェリア、ベニン、トーゴにかけての地域)の、オリシャ(精霊)信仰を再創造する形ではじめた儀礼が起源です。しかし、カンドンブレはヨルバ文化の単なる再現ではなく、アフリカの記憶と支配者ヨーロッパ人の文化要素、そして先住民インディオの知恵や知識を取り込みながら、新しい文化として再編したものと考えられています。

【信仰の中心地バイーア】

ブラジル北部のバイーア州には、タバコやサトウキビを栽培する労働力として多くの奴隷が連れてこられ、今も人口の80%がアフリカ系住民です。州都サルバドールは、カンドンブレ信仰の中心地となっています。

【祭壇の神々】

オリシャを祀る祭壇は重要で、各々のオリシャは特定のシンボルや色、形、物などに結び付き、その物語や性格や役割を表しています。素焼きの鉢にシンボルが入っただけの抽象的な姿にも、豊かな象徴が潜んでいます。

**オシュン** 愛と美の女神。すべての女性の表象。多面的性格をもち、政治的判断能力と戦略性をもっていると考えられる。鏡(身だしなみ)、イモリ(川)、黄色、団扇などをシンボルとする。

**ログン・エテ** オシュンと狩りの神エリンレッの息子。若い狩人を表す弓矢と母オシュンと同じ団扇をシンボルとする両性的性格。ビーズの首飾り、タツノオトシゴ(水)、青色などをシンボルとする。

**オグン** オシュンの夫のひとり。鉄との結びつきが強く、鉄の道具を扱う職を司り、鉢の中にある一揃いの工具を模したものでオグンを表す。

**インレッ** 狩りの神エリンレッが美しい若者として表現されるときの名前。水の神であり、狩りや医術を表象する存在。

**エシュ** オリシャと人間をとりもつメッセンジャー。しばしば祭壇を置く部屋の外に祀られる(展示の砂は戸外を示す演出)。コヤスガイは占いの道具であり、予言や占いに結びついているエシュを表象。

ほんかんだい しつ うちゅう かし  
 本館第5室：こころの宇宙——価値

ヒンドウーの神がみ：シヴァ

ヒンドウー教には、実に多彩な神様がいます。その中でも、現在、ヒンドウー教を信仰する人びとの間で特に人気の高い神のひとりが、「シヴァ」です。シヴァは、宇宙の破壊をつかさどる神で、ブラフマー（宇宙の創造をつかさどる）、ヴィシュヌ（宇宙の維持をつかさどる）とともに、ヒンドウー教の三大神と呼ばれています。シヴァは、両目の間に第三の目を持っており、彼が怒るときには激しい炎が出て、すべてを焼き尽くすとされています。

シヴァはまた、108種の舞踊を演じる「舞踊の神」ともいわれ、宇宙にあまねく満ちている力を示すナタラージャ（舞踏の王）の姿として表現されています。神話によると、シヴァと論争した異教徒が怒って、虎、蛇、小人（無知、暗黒の象徴。アパスマーラ）を作り、つぎつぎと攻撃してきました。しかし、シヴァは笑いながら虎の皮をはいで身につけ、蛇を首に巻き、小人を踏みつけて踊り続けたといわれます。この神話をもとにナタラージャの像が作られています。

シヴァは破壊の神とされていますが、破壊した世界を再建する創造力も持つ神です。宇宙は破壊されることによって、創造、維持というサイクルを繰り返します。ナタラージャの像は、シヴァのこうした宇宙的な活力を表現したものなのです。



ほんかんだい しつ うちゅう かし  
 本館第5室：こころの宇宙——価値

ヒンドウーの神がみ：ガネーシャ

ゾウの頭を持つガネーシャは、シヴァとその妃であるパールヴァティの息子です。どうしてガネーシャはゾウの頭をしているのでしょうか？ その理由は次の通りです。

パールヴァティは、夫の留守中に自分の体の垢を集めて人形を作り、それに生命を吹き込みました。こうして生まれた息子に彼女は満足し、用事をいいつけました。それは彼女の入浴中、家に誰も入れないように見張りをするのでした。そこへシヴァが帰ってきましたが、ガネーシャは父と知らず、母の言いつけどおりにシヴァを中に入れようとしませんでした。シヴァは怒ってガネーシャの首をはねてしまいます。

パールヴァティは息子の死を嘆き悲しみました。シヴァは哀れんで、この息子を生き返らせることにし、部下に命じてガネーシャの頭を投げ捨てた方向に探しに行かせました。しかし見つけることができず、最初に出会った動物、つまりゾウの頭を持って帰ってきたので、それをガネーシャの頭として取り付け、復活させたのです。

現在ガネーシャは、障害を取り除き、成功と幸運をもたらしてくれる現世利益の神として、また、富と繁栄の神として信仰を集めています。

